

1. 基本情報

「寺山修司 劇場美術館：1935～2008」

併設開催：「土方巽と日本のアヴァンギャルド」

■ 会期：平成 20 年 4 月 1 日（火）～ 5 月 11 日（日）

休館日：4 月 14 日（月） 開催日数：40 日間

■ 主催：寺山修司展実行委員会（青森県立美術館、青森朝日放送株式会社）

■ 観覧料：一般 1000（900）円、高大生 600（500）円、小中生 300（200）円

※（ ）内は前売および 20 名以上の団体料金 ※アレコホールも観覧できます。

■ チケット販売所：サークル K サンクス（サークル K：青森、秋田、岩手県内の各店舗サンクス：東北各県、北海道央、道南地区の各店舗）、サンロード青森、イトーヨーカドー青森店・弘前店、成田本店新町支店 Pax、さくら野百貨店青森店・弘前店・八戸店、三春屋、県庁生協・青森県民生協、弘大生協、青森市文化会館、青森県立美術館ミュージアムショップ、三沢市寺山修司記念館（予定）

※前売券は 3 月 1 日（土）より 3 月 31 日（月）まで発売（予定）

■ 概要

寺山修司（弘前市出身／1935～83）は県立青森高等学校時代、「俳句」によって表現活動をはじめ、早稲田大学進学後は「短歌」の世界へ、その後凄まじいスピードでラジオ、テレビ、映画、そして競馬やスポーツ評論の世界を駆け抜けていったマルチアーティストです。1967 年には「演劇実験室◎天井桟敷」を立ち上げ、人々の旧来的な価値観に揺さぶりをかけ、さらには多岐にわたる活動の中、美術、デザイン、音楽といった様々なジャンルで新しい才能を発見し、育てていったことも特筆すべき業績の一つと言えます。

本展は、美術館の 5 つの企画展示室それぞれを寺山の小宇宙と見立て、文学、演劇、映画、美術、音楽、スポーツといった様々なジャンルの作品、資料の展示を行います。その総体として、多岐にわたる寺山の活動が一望でき、その存在の意義が理解できる寺山修司展としては過去最大級の規模となります。

さらには、今年没後 25 年を迎える寺山の現在を、テラヤマ美学の最大の理解者である美輪明宏による「毛皮のマリー」の舞台装置、衣裳で現出させ、様々な関連資料もあわせて公開します。

コミュニティギャラリーでは、寺山修司と同時代に活躍した多彩な才能を紹介する同時開催展として、秋田県出身の舞踏家土方巽の資料を中心に、澁澤龍彦、種村季弘、唐十郎といった作家、演出家の仕事を紹介し、寺山の活躍した時代の世相を振りかえります。

「昭和」という時代に注目が集まる現在、寺山の華やかで多彩な活動をとおしてその時代に想いを馳せていただくとともに、寺山が残した言葉や思想から混沌とした今の時代を生き抜く智慧を感じ取っていただければ幸いです。

ー「マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや」 寺山修司

■ 関連企画

① 講演会（九條今日子、森山大道）

○会場：青森県立美術館シアター

○会期：未定（現在調整中）

※入場無料（展覧会チケットが必要です）

寺山修司の元夫人で仕事上のパートナーでもあった九條今日子氏と、生前から深い親交があり、近年は寺山修司の小説『ああ荒野』に 1960 年代の新宿の写真をコラボレートさせた書籍を刊行する等の活動を行っている写真家森山大道が、それぞれの寺山修司を語ります。

寺山修司

劇場美術館

：1935～2008

寺山修司

劇場美術館

：1935～2008

② 寺山映画特集上映（実験映画を中心にした寺山修司監督作品の特集上映会）

- 会場：青森県立美術館シアター
- 会期：未定（現在調整中）
- ※入場無料（展覧会チケットが必要です）

県立美術館が収蔵する寺山修司の実験映画16mmフィルムを一挙に上映いたします。観客席とスクリーンの中を行き来する「ローラ」も完全再現。あわせて、DVDメディアを用い人力飛行機舎／ATG 製作による「書を捨てよ、町へ出よう」「田園に死す」「さらば箱舟」等の劇場公開作品の上映も行います。

③ リアカーシアター（美術館パフォーミングアーツ部門による展示室内演劇）

- 会場：青森県立美術館企画展示室
- 会期：未定（現在調整中）
- ※観覧には展覧会チケットが必要です。

音響、照明機材を積んだオブジェ作品のようなリアカーを曳きながら、展示室内で即興的な演劇を行います。

④ ワークショップ（等身大の寺山パネルを製作し、美術館内外に展示を行う）

- 会場：青森県立美術館ワークショップB
- 会期：3月22日（土）、23日（日）
- 講師：森崎偏陸
- ※参加料無料

寺山の全身写真をもとに等身大のパネルを大量に製作するワークショップ。参加者のメッセージを入れて完成したパネルは、美術館内外で展覧会会期中、展示されます。

⑤ デザインコンペ（JAGDA 青森との連携により展覧会ポスターのコンペを行う）

「ジャグダ青森デザインキャラバン#3 寺山修司展をデザインする」

- 会期：2008年2月2日（土）～7日（木）
9：30～17：00（入館は16:30まで）
- 会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー（A-C）
- 主催：JAGDA 青森支部、寺山修司展実行委員会
- ※入場無料

JAGDA（日本グラフィックデザイナー協会）青森支部と連携し、寺山修司展デザインコンペを行います。コミュニティギャラリーに寺山修司の世界を表現した鮮やかなポスターが多数展示されます。入場無料ですので、是非ご観覧ください。そして、お気に入りのデザインに一票を投じてみませんか。あなたの一票が展覧会のポスターを決めるかも知れません。

■ 併設企画：「土方巽と日本のアヴァンギャルド」

- 会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー（A-C）
- 企画：青森県立美術館、スパンアートギャラリー、慶応義塾大学アートセンター

寺山修司と同時代に活躍した多彩な才能を紹介する併設企画。1960～70年代の前衛芸術運動を総体的に振り返り、寺山の活動した時代相を明らかにします。本展では特に秋田県出身の舞踏家土方巽を中心としつつ、東北の風土や精神性が日本のアヴァンギャルドに与えた影響を考察するとともに、土方とゆかりの深い澁澤龍彦、種村季弘、唐十郎といった同時代に活躍した作家、演出家の仕事を様々な資料によって多角的に検証します。

2. 展示概要

展示室 A：空には本 ～寺山修司の文学

展示会導入部。代表的な俳句、短歌、詩、アフォリズムや紹介するとともに、全著作、自筆原稿、愛用品等を展示いたします。また寺山修司の活動歴や履歴を参照できるコーナーも設けます。

展示室 B：あゝ、荒野 ～昭和零年 新宿、あしたのジョー、そしてニューヨーク

このセクションでは、寺山の活動した時代の空気を伝える森山大道の写真（『あゝ、荒野』所収のオリジナルプリント）や、鋤田正義撮影のニューヨーク・ラママでの貴重な写真（初公開）、寺山が愛した競馬、ボクシング等のスポーツに関連する資料を一堂に紹介します。

展示室 C その1：犬神家の人々 ～寺山修司幻想写真館

このセクションでは荒木経惟からカメラの手ほどきを受けた寺山の撮影した、幻想写真を公開いたします。

展示室 C その2：世界の涯てへ連れてって ～演劇実験室◎天井桟敷

このセクションでは、1967年から活動を開始した寺山修司主宰の「演劇実験室◎天井桟敷」に関連する資料を展示いたします。天井桟敷の全ポスターをはじめ、演劇「百年の孤独」の舞台模型、台本、スチール写真等の資料に加え、「百年の孤独」と「天井桟敷アンソロジー」の映像も上映いたします。

映像室：さらば映画よ ～青少年のための映画入門

映像室では寺山映画作品の映像等を3台のプロジェクターにより上映します。また展示室Cから映像室に至る通路には、映画ポスターや、台本、スチール写真等の資料も展示いたします。

展示室 D：「毛皮のマリー」～美輪明宏 VS 寺山修司

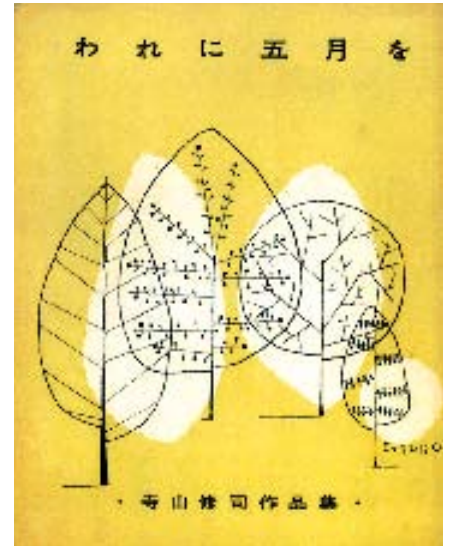
寺山が美輪のために書き下ろした1967年初演の舞台を、寺山没後の1994年に再演し、2001年からは演出も手がけている美輪版「毛皮のマリー」の8m×11mの巨大な舞台美術セットを設置します。照明、音楽を用い、演劇の雰囲気再現するとともに、舞台上には衣裳の数々も展示します。

展示室 E 前通路：仮面画報 ～寺山修司とアーティストたち

寺山は生前数多くのアーティストと仕事を行いました。このセクションでは横尾忠則、宇野重喜良、林静一を取り上げて展示します。

展示室 E：われに五月を ～百年たったら、その意味わかる

展示会の最終展示室となるこのセクションでは、寺山の没後に開催された様々なイベントのポスターや資料、没後出版された書籍の展示をとおして、現在もなお寺山が強い影響力を持ち続けていることを紹介します。また、寺山とゆかりのあった人々のインタビュー映像や、音楽家としての和田誠や湯浅譲二や武満徹といった音楽家とのコラボレーション資料や、ラジオドラマ、映画サントラ等の視聴コーナーも設けます。



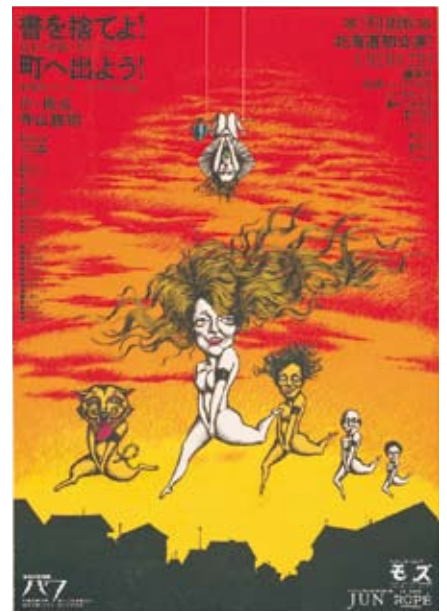
寺山修司作品集「われに五月を」表紙 1957年



寺山修司幻想写真 撮影：寺山修司



「天井桟敷定期会員募集」ポスター
宣伝美術：横尾忠則 1967年



左：「毛皮のマリー」舞台装置：デザイン・美輪明宏 2001年 資料提供：バルコ劇場 右：「書を捨てよ！町へ出よう！」ポスター 宣伝美術：及川正通 1969年



左：映画「田園に死す」1974年 資料提供：人力飛行機舎 右：映画「書を捨てよ町へ出よう」デザイン：榎本了亮ポスター 1971年 資料提供：人力飛行機舎

■学芸担当

青森県立美術館 美術企画課
学芸員 工藤健志

■総務担当

青森県立美術館 経営管理課
主幹 角田真士

■広報担当

青森県立美術館 経営管理課
主査 沼田久美子

電話 017-783-5242 FAX017-783-5244